

地域の宝「ながす金魚」情報発信事業

(団体名 長洲町養魚組合)

地域の現状・課題(取組みの背景)

長洲町は、全国有数の金魚の産地であり、金魚は「地域の宝」となっている。しかしながら、町伝統産業である「金魚養殖業」を取り巻く環境は厳しく、長洲町養魚組合も生産者の高齢化や後継者不足等の課題を抱えている。

このため組合では、こうした課題の解決に向けて、子どもたちへの「金魚学習(地域学習)」や「出前講座」の実施、PR・販路拡大等のプロモーション活動等に取り組んできた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国的にイベントや祭り等が中止となり、「金魚養殖業」は多大な影響を受けることとなった。

そこで、このような逆境を打破するためには、新しい生活様式に対応した「金魚学習(地域学習)」等の普及や「ながす金魚」の全国的なPR事業等、デジタルを活用した「ながす金魚」プロモーション活動の推進が必要不可欠であると認識し、これまで苦手であったデジタル分野に一步踏み出し、伝統産業である金魚養殖業を未来につなげるための新たな取組みを行うこととなった。

取組概要

1 「ながす金魚」PR用デジタルコンテンツの製作

コロナ禍の中、新しい生活様式に対応していくためのツールとして、「ながす金魚」に関する教育や情報発信に使用できるデジタルコンテンツを製作した。

【ながす金魚デジタルコンテンツ「デジタル金魚の館」(50分~60分)】

1. 長洲金魚の歴史(長洲町での始まりと、発展)
2. 長洲金魚を支える人たち(長洲町養魚組合 インタビュー含)
3. 金魚の種類(新品種の紹介等)
4. 金魚の飼い方
5. 「金魚のまち」の取組み
6. たった1匹からの挑戦(道徳教材)他

2 地域の宝「ながす金魚」魅力再発見事業(デジタルコンテンツ活用の体制づくり)

町や教育関係者等と協議し、町のホームページから当該デジタルコンテンツを視聴可能できる体制を整えた。このことにより組合が実施している「ながす金魚」に関する出前講座や、学校教育におけるタブレット端末を活用した「金魚学習(地域学習)」に、場所や端末を問わず活用ができるようになった。

3 「ながす金魚」PR事業

製作したデジタルコンテンツを、町のHPで発信するとともに、メディア等向けの試写会を行い「ながす金魚」を全国的にPRした。

現在、そして今後の取組み

新型コロナウイルス感染症の収束が不透明な中、長洲町の伝統産業である「金魚養殖業」を取り巻く環境は厳しい状況となっている。その逆境の中でも何とか活路を見出せるよう、「金魚学習」へのデジタルコンテンツ(デジタル金魚の館)の活用等の取組みを行っている。

今後も継続して、金魚学習等でデジタルコンテンツを積極的に活用し、地域の宝である「ながす金魚」を通じた地域活性化を図っていく。

またこれらの取組みとともに、「ながす金魚」の魅力をはじめ、金魚のまち=ながすの全国的なPR展開につながるような事業を引き続き実施していく予定である(令和4年度、玉川高島屋(テナント)で町と連携し「ながす金魚」PR事業を実施予定)。

写真

